



研修を受け入れていただいた岡村氏

## 概要

## ◆氏名・所在地

渡辺 顕治 新潟県新潟市

## ◆就農年

令和6年10月

## ◆経営規模

ぶどう 40a

## ◆従業員数

本人 1名

## ◆事業内容

シャインマスカット、巨峰の栽培に取り組む。

## 1

## 就農相談までの背景

高校で食物学科で学び、料理で人々を喜ばせたいと調理師免許を取得し、飲食店で調理の仕事をしていた。

しかし、コロナ禍で、仕事が思うように出来なくなったことから、食材の農産物を栽培する農業に興味を持った。

就農するにはどうしたらよいのかネットで調べていたところ「農業経営・就農支援センター（旧：青年農業者等育成センター。以下「支援センター」という）」のHPから、就農相談会が近日中に開催されることを知った。

## 2

## 相談内容

相談会では、支援センターの農業総合相談ブースで栽培したい作目、就農希望地、農業体験等について相談した。

支援センターの担当者から、いくつかの相談機関を紹介された中、関心のある果樹の独立就農が可能な新潟西部地域担い手対策協議会※1のブースを訪ね、後日、巻農業普及指導センターへ農業体験などの詳細について相談することとなった。

※1 農業の担い手の確保・育成・定着を目的に、新潟市西区、西蒲区、J A新潟かがやき、巻農業普及指導センターで構成された組織

## 3

## 支援内容

## ●研修先の決定

連絡を受け、担い手対策協議会で対応を協議し、管内のぶどう産地である中ノ口地区の生産者岡村直道氏を紹介した。

その後、アルバイトを兼ねた短期研修を行いながら、岡村氏を研修先として里親制度※2を活用して令和4年10月から2年間の研修を開始した。

※2 新潟西部地域担い手対策協議会でされている研修制度

## ●関係機関との連携による取組

担い手対策協議会では、効率的な研修となるよう新潟県農業大学校の就農実践コース※3への参加を促すとともに、就農準備資金を活用した研修を支援した。就農後も経営開始資金の導入、技術支援や経営指導など、安心して営農が出来るように支援を行っている。

※3 円滑な就農や雇用就業に必要な技術や経営に関する約1年間の講義・実習を通じ、基礎知識や技術等の習得を目指す研修

## ●就農開始に向けた取組

J A担当者を中心に園地を探し、令和6年10月の就農当初から40aの園地を確保し経営を開始することができた。

園地ではぶどうの苗木の定植を行い、就農初年度からある程度の売り上げを確保できるように準備を行った。

## 今後の意気込み

しばらくはシャインマスカットをメインに栽培し、余裕が出てきた段階で、他品種も導入したいと考えています。

将来は周囲の遊休農地でワイン用ぶどうを栽培し、集客して直売したり、規模拡大しての法人化や、夢ですがワイン醸造なども行っていきたく考えています。

これまで支援いただいた方々に感謝申し上げますとともに、これから引き続きよろしくお願いします。



相談対応の様子



剪定作業の様子

## 専属スタッフ所感

最初就農相談時から就農に期待大の青年の印象を受けました。研修受入経営体のご協力により、研修時から新たなぶどうの定植を行い、令和7年度から収穫が可能ということで、美味しいぶどうが実るよう樹の手入れに励んでいただきたいと思います。

また、5年後には、果樹園地の面積を2倍にする計画ということで、地域の中心的な経営体として成長していくことを期待しております。



カレッジ農場での栽培実習

## 概要

### ◆氏名・所在地

松本 アキラ 富山県魚津市

### ◆研修開始年

令和6年4月

### ◆研修内容

とやま農業未来カレッジ（以下、「カレッジ」という。）にて1年間、栽培技術や農業経営などの講義、作物実習、機械演習等に取り組む。

## 1 就農相談までの背景

農業に興味を持ちながらも、非農家で経験する機会も得られなかったため、県外で製造業に就いていた。母から、知り合いの農業者が後継者を探しているとの話を聞き、また家族の勧めもあり、仕事を辞め農業に就く決心が固まった。後継者候補として歓迎されたものの、農業は未経験。知識や技術もないため、一定程度の知識習得の必要性を感じ、情報を調べたところ、「とやま就農ナビ」を見つけ、「富山農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に相談をした。

## 2 相談内容

後継者候補として、就農に向けての話は進んだものの、今まで農作業の経験が全く無いため、農業の知識・技術を習得するにはどうすればよいか、研修中の生活資金の確保はどうすればよいかなど、詳しく教えてほしい。

## 3 支援内容

### ●知識・技術習得に向けた相談対応

支援センターでは、専属スタッフが栽培技術習得に向けた研修制度や研修期間中の支援策等について説明した。技術習得については、農業の知識が殆どない一方、継承することがすでに決まっており、早急に農業全般の知識を身に付ける必要が高いと判断されたため、栽培技術から経営管理まで総合的に履修できるカレッジでの研修を勧めた。

また、栽培品目と就農地が定まっていたことから、就農後のフォローアップが進むよう該当地域の市町村、農林振興センターとの連絡・情報共有を図った。

### ●とやま農業未来カレッジでの 総合的知識・技術の習得支援

カレッジでは、総合的な農業知識に加え、カレッジ農場等での栽培実習や機械操作演習を行い、基礎技能の習得を図った。支援センタースタッフも定期的にかレッジに出向き就農計画策定の助言を行い、就農から継承までのロードマップを描くことなどの支援を行った。

### ●関係機関との連携による取組

カレッジ卒業後は、継承予定農家において2年程度かけて段階的に継承が進むよう実地研修を行う計画である。実地研修による技術習得に加え、経営理念の継承、地域や顧客との信頼獲得などが円滑に行われるよう、市町村や農林振興センター等と連携しながら支援を進める予定である。



カレッジでの機械演習（畝たて作業）

## 今後の意気込み

農業未経験ながら、継承の話がすすみ、不安だけが残っていました。支援センターに何度も相談したことで、就農に向けた道筋が明らかとなり、大変助かりました。

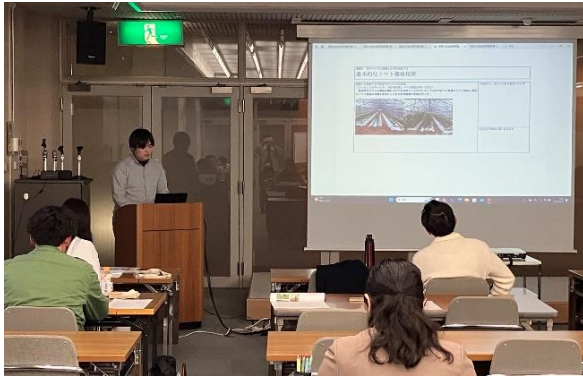
カレッジでは、志を同じとする仲間と協力し合い知識・技術を高めることができました。今後は、カレッジで得たことを活かしながら、継承予定農家での研修、そして継承に向け頑張っていきます。

## 専属スタッフ所感

支援センターでは、随時、専属スタッフが農業経験の状況や相談者の希望なども踏まえ、相談に応じています。

相談者は、経営継承、就農に向けカレッジ研修に意欲的に取り組んでおり、農業が職業となり、地域農業の担い手となるよう、関係機関と連携し、就農をサポートしていきます。





中野氏

## 概要

### ◆氏名・所在地

中野 翔太 石川県能登町

### ◆就農年

令和7年4月

### ◆経営規模

トマト ハウス3棟、キュウリ ハウス3棟、スイカ0.2ha、ブロッコリー0.2ha

### ◆従業員数

なし

### ◆事業内容

トマト、キュウリ、スイカ、ブロッコリーの栽培に取り組む。

## 1

## 就農相談までの背景

ＪＡに勤めている母親から「地元で就農しないか」と誘われたことがきっかけで、「Ｕターンして地域に根付いた農業を始め、地域の産業を盛り立てる一助になりたい」と思った。

母親から相談先として「農業経営・就農支援センター」を教えてもらい、まず、普及指導センターにいる支援センターの地域コーディネーターに相談した。

## 2

## 相談内容

「石川県能登町でトマトを栽培したい」と大まかな構想はあったので、自分なりに情報を集め始めた。

しかし、技術力不足や自分で経営計画を立てることに不安があり、営農に必要な技術や農業経営等について具体的に学びたい。

## 3

## 支援内容

### ●いしかわ耕稼塾での研修

令和6年4月からいしかわ耕稼塾「本科」※に入塾し、栽培実習や講義（栽培・経営）等を通じて、自営就農に必要な技術や知識の習得を図った。

※月～金曜日まで年約240日間、栽培実習や講義を受ける研修コース。

支援センターでは、支援センターのサテライト窓口である普及指導センターと連携し、本科のカリキュラムの農家派遣研修（5日間）の受け入れ先を選定し、就農希望地・品目であるトマト部会にて研修を実施させてもらった。

農家派遣研修では、部会員に新規就農希望者について知ってもらうことができ、その後親身になってアドバイスいただける良好な関係を築くことができた。



いしかわ耕稼塾での研修の様子

### ●関係機関との連携による取組

農業経営・就農支援センターは、普及指導センター、能登町役場、ＪＡ内浦町と、就農にむけた打合せを定期的に（月1回）実施。

研修生の意向を確認しながら、農地の確保や農業機械、営農計画等について検討し、青年等就農計画認定や支援事業の活用等にもむけて協議を続けた。

令和7年4月から自営就農を開始予定である。



関係機関との打合せの様子

## 今後の意気込み

就農に向けた手順を丁寧にご教示いただき、就農に向けた一歩を踏み出すことができました。農業をこれから始める仲間やアドバイスいただける先輩との関係も作ることができました。まだ手探り状態ではありますが、就農後も関係者の方に栽培方法などを相談し、成長していけるよう、誠心誠意取り組んでいきたいと思っています。

## 専属スタッフ所感

支援センターは、就農希望者のワンストップ窓口となっています。就農までの準備を丁寧に行うことで、その先の経営安定や発展につながります。

相談者は、いしかわ耕稼塾の様々な研修を経て、就農におけるビジョンが明確化され、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も関係機関と連携を図りながら、引き続きフォローしていきます。



上原氏（就業先の農舎前にて）

## 概要

### ◆氏名・所在地

上原 大希氏 福井県坂井市

### ◆就農年

令和6年4月

### ◆事業内容

農林高校卒業後、農業法人へ就農。雇用就農先では、水稲、大麦、ソバの栽培に取り組んでいる。

## 1

## 就農相談までの背景

家は非農家であるが、農業に興味があり農林高校に入った。高校2年生の時に農業法人でのインターンシップを経験し、就農への意欲を持った。

さらに、高校3年生の時に、「**福井県農業経営・就農支援センター（福井県就農支援センター。以下「支援センター」という。）**」が、高校生を対象に開催した就農相談会に参加し、就農した先輩から生の声を聞くことができ、雇用就農の意志を固めた。

## 2

## 相談内容

高校を卒業後、稲作経営を行う県内の農業法人に就農するために、雇用就農先を紹介してほしい。

## 3

## 支援内容

### ●雇用就農先の紹介

支援センターは、求人情報を持つ（公社）ふくい農林水産支援センターと連携し、相談者に適した雇用先（農業法人）を数ヶ所選定し、高校の担任の先生を介して紹介。担任の先生も交えて農業法人と複数回面談した上で、雇用就農先を決定した。

### ●専門知識等習得への研修紹介

就農後に稲作の専門知識の習得や、各種機械の機械操作・免許取得に向けて、県主催の「越前若狭 田んぼ道場」への参加を促した。同時期に同法人に雇用就農した同年代の同僚と一緒に参加することとなった。



越前若狭 田んぼ道場での研修

### ●雇用就農先に対する支援

雇用就農先に対し、就農者の適切な育成に取り組んでもらうために、雇用就農資金の活用を勧めた。

また、若い就農者の定着促進のためには、働きやすい環境（適切な休暇・休憩時間の確保、健康管理等）を整えることが重要であると助言を行った。



雇用就農先の社長と話す就農専属スタッフ

## 今後の意気込み

紹介いただいた農業法人では、社長をはじめ社長のご家族からも、栽培管理などの作業方法について丁寧な指導があり、**同年代の同僚と一緒に切磋琢磨しながら作業することができ** 毎日充実しています。

田んぼ道場で学んだ技術や知識も活かし、免許を取得しながら、より多くの種類の作業がこなせるように頑張りたいです。紹介いただいた支援センターの就農専属スタッフの方とご縁だと感謝しております。

## 専属スタッフ所感

相談会の際の就農した先輩からの農業に対する良い面と悪い面双方の生の意見を参考にし、それでも就農への意思を固めたと聞き、期待ができると感じました。今回、相談者の希望である経営内容や勤務場所等と農業法人の希望が上手く合致しました。**就農へ導くためには、本人の覚悟と就農先の経営者の受入れ姿勢のマッチングが重要である**と考えております。今後、福井県の若手担い手として、**普及指導センター等と連携しながら、引き続きフォロー**していきます。